

平成 21 年 12 月 25 日

各 位

『F F G 調査月報 1 月号』発行について

経済調査誌『F F G 調査月報 1 月号』を発行いたしましたのでお知らせいたします。
今月のメインレポートは、寄稿「アジアの最新ファイナンス事情」および地域経済調査「BS 調査による景況感の変化」です。

なお、F F G 調査月報は福岡銀行、熊本ファミリー銀行、親和銀行の営業店の窓口に配置しております。

【メインレポート】

寄 稿

アジアの最新ファイナンス事情

九州大学大学院 丹羽 由一 教授

九州大学経済学研究院・ビジネススクールでは、福岡銀行と連携して昨年度より「アジア財務戦略」と題した特別講義を開講しています。これはアジアの金融情勢およびビジネス環境を主に財務面からレビューするもので、中国経済の台頭や新興諸国の市場化に伴い拡大するアジアビジネスにスポットをあて、その背景となるファイナンス事情を中心に講義しています。また、毎回の講義では新聞記事による生の時事解説も加え、教室と実態経済の同時進行型講義形式を目指しています。

本稿ではこの講義から、実務家の皆様にも参考となる部分を選び、そのポイントについてご紹介いたします。

地域経済調査

B S I 調査による景況感の変化

福岡県、熊本県、長崎県の 3 県の企業約 500 社を対象として、2009 年 10 月に実施した「企業動向調査アンケート」を基に、3 県企業の景況感の他、企業における経営課題やその対応策などについてレポートします。

トップに聞く

FFG 3行の頭取が、各行のお取引先企業を訪問する「トップに聞く」のコーナーです。今月はお取引先企業3社を訪問し、経営者の皆様からお話をいただきました。

山本 雄造 氏（株式会社山本工作所 取締役社長）

当社は西日本地区を営業基盤とし、ドラム缶の製造においては国内有数のメーカーです。当社は不況を技術革新のチャンスと捉え、製品の致命傷となる「漏れ」がほぼ完全にチェックできる新たな気密検査装置を導入するなど、新技術を積極的に採用し、業界をリードしています。「環境モデル都市」北九州を代表する企業のひとつです。

肥後 忍 氏（株式会社肥後産業 代表取締役会長）

当社は鹿児島県を地盤とし、トラック輸送で全国をカバーする地場有数の運送業者です。取引先の信頼を得る「人財育成」に強みを持つ当社は、倉庫業の開始や熊本支店の開設など、積極的な業容拡大と業務効率化に取り組んでいます。また、野球場の約13倍にも及ぶ森林を取得し、地球温暖化防止に取り組むなど、スケールの大きな環境保護活動も展開しています。

伴 謙太 氏（農事組合法人吾妻しいたけ生産組合 代表理事）

当組合は全国トップクラスの生産量を誇る菌床しいたけ栽培業者です。創業者である代表理事は、異業種で培ったノウハウを活かし、高品質しいたけの安定生産に成功されました。また、一貫して「地元経済への貢献」と「農業近代化への寄与」に取り組んでいる当組合では、地元雲仙市において雇用を通じた地域貢献を行い、循環型農業経営の実践を目指しています。

海外レポート

「香港における『食品栄養表示法』施行について」

日本にとって農産物の最大輸出先である香港では、厳格な『食品栄養表示法』の施行を来年に控え、流通業界を中心として今後の食品マーケットに及ぼす影響とその対応方法に大きな関心が集まっています。今回のレポートでは、同法の概要を紹介し、その影響や必要となる対応についてレポートします。

<<本件に関する問い合わせ先>>

株式会社 FFG ビジネスコンサルティング 企画調査部（担当）島浦、真田

電話：092-723-2576 FAX：092-761-8846